宮城県美術館ニュース

休館中限定号 Vol.6

2024年12月20日発行

RENEWAL NEWSLETTER

響きあう絵画たち。

ヴァシリー・カンディンスキー《活気ある安定》1937年（「響きあう絵画 宮城県美術館コレクション」出品作品）

宮城県美術館はリニューアル工事のためただいま休館中です。

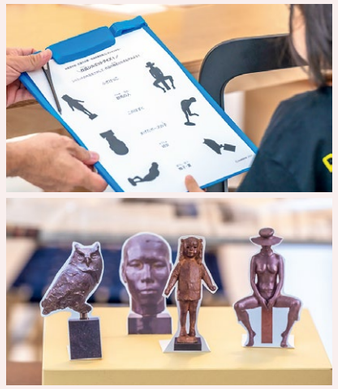
「移動美術館 佐藤忠良展」関連イベントレポート

休館中も当館の作品を楽しんでいただくために、宮城県出身の彫刻家、佐藤忠良（1912～2011）が手がけたブロンズ作品や絵本の仕事を紹介する展覧会「移動美術館 佐藤忠良展」を、石巻市博物館（8月3日～9月29日）としばたの郷土館（10月19日～12月15日）で開催しました。併せて、関連イベントとして参加体験プログラム（8月17日実施）の様子をお伝えします。

参加体験プログラムでは、佐藤忠良作品をじっくりと鑑賞・体感してもらえるようなメニューを二つ用意しました。

一つ目は、彫刻作品の中から6作品をシルエットにしたクイズシートを来館者に配布し、展示室内で該当作品を探してもらうというもの。親子で巡りながら「これかな？」「あれかな？」と活発な会話も聞かれ、シルエット探しをきっかけにじっくりと彫刻作品を見ている姿が印象的でした。クイズの後は、彫刻作品を短冊状にプリントアウトした紙を彫刻の形に切り抜いて立てる紙製スタンドの制作を行いました。手軽にできることから子ども大人も分け隔てることなく制作ができ、立ち上げた紙製スタンドを見てみなさん満足そうでした。

シルエットの作品を探し中



上：シルエットクイズシートを配布 下：彫刻の紙製スタンド

二つ目は、展示室の彫刻作品の中から気になるものを1点選び、そのポーズを真似てもらうメニューです。スタッフが撮影し、ポーズをとる自分の姿と彫刻とを見比べました。実際にポーズを真似ることで、作品を見るだけでは意識しなかった筋肉の動きや微妙な身体のこわばりなどに気づく体感的な鑑賞体験となりました。ポーズを真似た後は、新聞紙とクラフトテープを使って、その該当作品を実際に作ってみる活動を行いました。人物の気持ち、動きなどが意識的に造形にも反映されたようです。

（教育普及部 郷泰典）

真似た彫刻を作ってみる

彫刻のポーズを真似てみる

作品貸出情報

右記の展覧会に当館の所蔵作品を貸し出しています。

※展覧会の詳細は会場にお問い合わせください。

展覧会名	会場・会期
パウル・クレー展 ―創造をめぐる星座	愛知県美術館　2025年1月18日（土）～3月16日（日）
生誕130年記念　北川民次展 ―メキシコから日本へ	郡山市立美術館　2025年1月25日（土）～3月23日(日)

宮城県美術館ニュース（休館中限定号）
Vol.6 発行日／2024年12月20日

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください
https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/

宮城県美術館
〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1
メール：bijutu@pref.miyagi.lg.jp
電話番号：022-221-2111
ファックス：022-221-2115

あなたに夢を。宝くじ 街に元気を。 クーちゃん

コレクションは旅行中

旅先で訪れる美術館には、通いなれた地元の美術館とはまた別の楽しみがあります。写真でしか見たことのない、その館の看板作品の前に立った時の高揚感は、観光名所を訪れた時の感興にも劣らないものですし、「あの作家の作品がここにも!」という不意の出会いがあるかもしれません。町ゆかりの巨匠や、地域のアートシーンを盛り上げた作家の作品、辺りの風景や生活に根差した作品を眺めれば、その土地の横顔が一層くっきりと見えてくるのではないでしょうか。

「響きあう絵画」展は、当館のコレクションが旅に出て、さまざまな土地や人々と巡り合う展覧会です。出品作は、松本竣介の《画家の像》やカンディンスキーの《活気ある安定》(表紙)など、常設展でおなじみの作品ばかり。現在、最初の会場となる神戸ゆかりの美術館で開催しています。

宮城や東北の画家たちの作品は、それぞれの土地にどんな風を届けてくれるでしょうか。また、出品作には各開催地に縁のある画家の絵も含まれています。神戸会場では、兵庫で活動した「具体美術協会」の吉原治良や白髪一雄の作品が里帰りとなりました。当館では戦後美術のスターとして紹介される2人の大画面を、来場者の方々が、地元の身近な芸術家の絵として親しげに鑑賞されているのが印象的でした。

神戸会場の展示風景

いつも当館で見ている所蔵品が、他館で展示される機会があると、普段とはひと味違った顔を見せて、思いがけない魅力に気づかされることがあります。会場周辺の方はもちろん、リニューアルオープンを心待ちにされている宮城の方も、お近くを訪れた際には、旅先で新鮮な光を放つ作品たちの姿を見にぜひお立ち寄りください。　(学芸部　小檜山祐幹)

展覧会案内　**響きあう絵画 宮城県美術館コレクション** カンディンスキー、高橋由一から具体まで

神戸ゆかりの美術館　開催中〜2025年1月26日(日)　**久留米市美術館**　2025年2月8日(土)〜5月11日(日)　**他**

夏の美術館はなぜ寒い?

夏の暑い日に美術館に行った。入ったときはたしかに涼しくて生き返った心地がしたのに、しばらくすると汗ばんだTシャツがだんだん冷たくなって肌にまといつき、ついには寒さに震えた。こんな経験はないですか?

夏場になると、展示室が寒いというご意見をいただくことが少なからずあります。美術館としても、暑い日にはなるべく外気との差を小さくしたいのですが、なかなか温度を上げることができない事情があります。実は美術館の展示室の温度や湿度は一年中ほぼ同じに保たれているからです。それは美術品の保存管理にとても大きくかかわることなのです。

たとえば絵画などの美術品は、多くの場合絵の具で描かれています。その絵の具には接着の役目を果たすための有機物が含まれています。有機物は温度や湿度が上がると、食べものと同じようにカビが生えてしまうことがあります。この危険を避けるために、美術館内はカビが活動できない温度と湿度の範囲内で、しかも人にとってもすごしやすい環境に保たれているのです。その温度の目安は20〜22度で、湿度は50〜55%となっています。温度22度、湿度50%というのは、日本では春や秋の気候に近くすごしやすい環境です。つまり、展示室の中は一年中春か秋なのです。

だから冬に美術館を訪れた人は、コートを脱げば春のような快適な環境で美術鑑賞をすることができます。ところが、連日猛暑が続く夏場に半袖で薄着のまま美術館にきた人にとっては、外との気温差が10度以上もあり、夏の服装のままいきなり秋になったようにとても寒く感じるのです。

近年の地球温暖化の影響でしょうか。今年の夏も猛暑に見舞われました。暑い日に美術館に行くのはとてもいい避暑になるのですが、薄着のまま美術館に行くときは一枚はおるものを持っていくことをおすすめします。　(副館長　濱﨑礼二)

高精細データのひみつ

—所蔵作品の高精細データ記録について—

宮城県美術館では令和4(2022)年度に所蔵作品の高精細データ記録を行い、このデータから作成したレプリカとともに、休館中の展示事業や小中学校等への出張授業に活用しています。このコラムでは、高精細データの特徴や技術的なポイントについてお伝えします。

今回の高精細データ記録では、日本画・油彩画・海外の作品・絵本原画など当館の所蔵作品から30点を記録しました。

解像度は1200dpiで、一般的な書籍の印刷に必要とされる解像度300dpiの4倍にあたります。そのため大きく拡大しても細部まで観察することができます。(「dpi(dots per inch)」は1インチ内に何個ドットが含まれているかを表す単位です。)

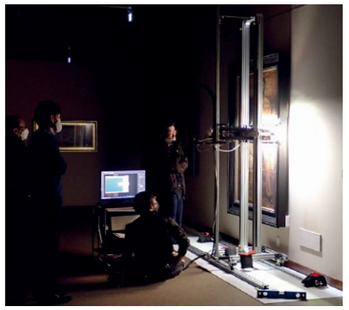
高解像度であるだけでなく、作品をスキャンする際の光の当て方や、画像処理方法にもポイントがあります。絵画は一般的に、画布や紙などの支持体、下地、絵の具や顔料などの複雑な積層構造になっていて、表面にも筆遣いや絵の具の盛り上がりなどの凹凸があります。こうした立体構造は、なかなか写真などに記録するのが難しいものです。そこで今回の記録方法では、それぞれの絵画の構造に合わせて多方向、多角度から光を照射し、絵画の素材感や立体感を記録しています。また実物の作品と比較した色校正も行っています。

今回データを記録した作品は、一番古いもので140年以上前に描かれています(高橋由一《宮城県庁門前図》1881年作)。その頃にはモノクロ写真が一般的だったことを考えると、現在の技術革新に驚きます。作品を後世に伝えることで、このようにその時代の最新技術で様々なデータを取り出すことができ、それがまた新たな発見に繋がるかもしれません。　(学芸部　柴野倫子)

高精細データ記録の手順

1 スキャン作業

作品の前に専用のスキャナーをセットし、時間をかけて少しずつスキャンします。多角度から光を当てて複数回記録します。



2 データの統合

スキャンで得られたデータを、最新技術で統合・画像処理します。高解像度のため一度にスキャンできる面積が決まっており、写真のように分割された画像が取得されます。

3 色校正

統合したデータを出力し、実物の作品と比較して色味を調整します(写真では奥が実物の作品)。

完成したデータを拡大してみると…

1〜3の工程を経て作成されたデータには、光を当てたときにできる陰影が記録されていて、立体的に感じられます。

[**作品名**] 上段:松本竣介《画家の像》1941年/下段:海老原喜之助《ポアソニエール》1934年(洲之内コレクション)

高精細データは当館のウェブサイトでご覧いただけます!(公開用に圧縮しています)
https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/mmoa-digital.html